

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム 笑顔の村	評価実施年月日	2007年4月1日
評価実施構成員氏名	片桐 幸子 内海 悦子 伊豆 裕子 工藤 悠 岸田 江利子 三浦 康子 宮津 律子 佐々木 道子 南山喜久子		
記録者氏名	加地 千秋	記録年月日	2007年4月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域の行事などに参加し、人と人との交流を深め、かつ理解協力してもらう事により、人間関係を築き、交流を深める理念を作り上げている。</p>		町内会等の行事に参加する事により、地域の一人として安心した生活、暮らしを築いている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎日の申し送りやミーティングの際に理念の重要性や、実践についての取り組み方、地域交流の意義について話し合いを行っている。</p>		職員の採用、面接時に必ず理念に触れ実践してもらえるよう努めている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>町内会、家族、地域自治の代表の参加にて運営推進会議を行い、理念の重要性を説明し理解してもらえるよう努めている。</p>		職員が町内会の行事等に参加し、対話する事により、地域密着型サービスとしての理念を分かり易く伝えられるよう努めている。地域に密着した活動をしている事業所と言う事を理解してもらえるよう日々対話と交流を重ねている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>利用者との散歩の際、必ず近隣の方と挨拶を交わし談話し、ホームに遊びに来てもらえるよう声掛けをしている。</p>		町内会行事に沢山参加し、地域の方々の理解を深め、いつでも気軽にホームに見学や遊びに来られるよう取り組みをしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会でのゴミ拾い、草むしり等に積極的に参加し、職員が地域の人々と利用者が円滑に交流できるよう間に入り地域の方々と交流し易いよう努めている。</p>		町内会の行事等に参加する時は利用者の体調に考慮しながら地域の方々と交流が持てるよう取り組んでいる。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の方に認知症の理解を求め、地域高齢者の相談を随時行い受付けている。</p>		運営推進会議で会議メンバーから相談を受けたり、事業所で培った知識や実践経験を地域の住民や高齢者の方の暮らしに少しでも活かせるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>年一回職員全員が参加して自己評価を行い、外部評価の結果についてミーティングで検討し、質の向上に努め、より良いホームづくりに取り組んでいる。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議において、会議メンバーからの率直な意見をもらいサービス向上に活かしている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>区役所や行政機関との連携を深めるように取り組んでいる。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>管理者と職員は理解に努め、利用者がそれらを活用するための話し合いや関係機関への橋渡しが出来よう取り組んでいる。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>全職員は高齢者虐待防止に関するマニュアルを基に十分な理解を図り、虐待の徹底防止に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約に係わる事項は、不安や疑問点が無いよう、事前に詳しい十分な説明を必ず行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の利用者との談話の中から、自然に希望・願いを聞き出す努力を行っており、それをミーティングで検討し運営に活かしたケアを行っている。		利用者より不満や意見が聞かれた時は全職員でミーティングにて検討し、対応策を考え十分なケアを行っている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月「スマイル通信」を郵送し、利用者の日常生活や健康状態を報告している。また、ホームページにて閲覧する事もできる。(HPIに関しては個人情報保護によりパスワードを入力しないと閲覧できないようになっている)又、通信と共に日常の金銭の報告も行っている。		来訪時には家族の方に必ず近況状況や健康状態の説明・報告を行っている。気軽に電話などで話せるよう職員は家族との円滑な連携に取り組んでいる。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時、家族が話し易い雰囲気作りをし、全職員に何でも言ってもらえるように必ず声掛けし、聞き入れ、苦情等を聞かれた場合はミーティングにて話し合い受け止め、ケアの反映に努めている。		家族からの苦情や意見が出た場合は全職員でミーティングにて話し合い、今後の対策や方策、取り組みを家族に伝えサービスに反映させている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの際には、職員の意見を十分に聞き、話し合い、サービスの質の確保・向上に活かしている。		いつでも管理者は職員に声掛けし、意見・不満・要望に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ、円滑な生活が送れるよう職員の勤務の調整に努めている。また、職員の急な欠勤には、他の職員が即座に対応できる勤務体制が出来ている。		利用者の状況や体調に応じて必要な支援を提供出来るよう早めの人員確保を行っている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者や職員の馴染みの関係を保つ事を重視し、職員の離職の際には利用者のストレスを最小限に抑える取り組みをしている。		やむを得ず職員が交代する場合は、利用者のダメージを最小にする為の検討を行い、円滑な人間関係やケアの継続の為の取り組みを行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>管理者は必ず市や区で開催される会議に出席し、その際に必要な事項はミーティング等で話し合い、十分に意見を取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		職員は事業所内外の研修に参加し、技術や知識を身に付け、ミーティングで報告の場を設け全職員の質の向上に努めている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>区の勉強会(会議)があり、同業者との事例検討を行い、サービスの質の向上に活かしている。又、他の施設に問い合わせが出来るような関係づくりをしている。</p>		他グループホームを見学する事により、管理者や職員の仕事に対する意欲の向上につながり経験を発揮してケアに活かす事が出来る。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員がストレスをためないよう、疲労の度合い、不満や悩み等を話し合い理解し、職員の体調管理に努めている。</p>	○	他グループホームとの交流や親睦の場をつくり職員が気分転換を図ったり、ストレスを解消できるよう努めている。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>管理者や職員各人の実績、勤務状況を常に把握し、各自が向上心を持てる職場環境づくりに努めている。</p>		職員の資格取得に理解を示し、勉強会や研修会にはなるべく参加出来るよう取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入所前の利用者の状況や日常生活のあり方、不安や困っている事、悩み等を把握し、些細な事でもミーティングで取り上げ、利用者の思いを受け止めコミュニケーションが取れるよう努めている。</p>		全職員が入所前の生活状況を把握できるようミーティングを行い、早くに信頼関係が築けるようにしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族が希望されている事、求めている事を把握し、事前に話し合い理解するよう努めている。家族とコミュニケーションを取り気軽に相談できる環境づくりを行っている。</p>		職員は家族の利用者への想い等をしっかりと聴き、受け止める努力を行っている。又、入所前でも気軽に問い合わせが出来るよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いや状況を確認し支援している。出来る事は速やかに実行できるよう関係機関との連携を図りサービス提供に努めている。		問い合わせがあった場合は相談受付票に記入している。本人にとって良い方策につながるよう対応に努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの場に馴染んでもらえるよう、なるべく事前に本人と家族に来てもらい、雰囲気味わい安心して納得しながらサービスが利用できるよう努めている。		家族から本人の性格、生活状況を聞き取り、それに近い状態の日常生活が送れるよう家族との話し合いに努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩と言う事を念頭に置き、人権を尊重し、敬い、共に過ごしながらコミュニケーションを図り、和やかな『和』が作れるよう配慮している。		利用者とのレクリエーションや談話・会話等を通じて、人として共に支えあえる人間関係が築けるよう取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日頃の生活の様子を家族に伝える事により、職員と家族が一緒になって利用者を支え合える関係が築けている。		月1回発行している通信にお手紙を添えて、利用者の1ヶ月の生活状況を報告している。利用者の細かな事まで家族が知る事により家族との信頼関係を築いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	来訪時には、本人と家族がゆっくりとくつろげるような環境づくりに努めている。家族が疎遠の場合は手紙にて詳細を述べ来訪してもらえよう支援している。		利用者に対する家族の希望を取り入れ、状況に応じながらサービス提供をしている。家族から電話が来た時は利用者に取り次いで会話を楽しんでもらえるよう配慮している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人等、利用者の馴染みの深い方々に訪問してもらっている。昔楽しかった場所、思い出話を職員が聞く事により穏やかな気持ちになれるよう支援している。		月1回、利用者の馴染みの方に手紙を書き、訪問してもらえよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は利用者同士の関係を把握しており、レクリエーションやお茶会、行事等を通して楽しく暮らせるよう見守りをし支援している。		全利用者が楽しく日常生活を送れるよう少しの変化も見逃さず、職員同士の連絡を密にしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了した後も、利用者や家族による相談事等があれば気軽に相談ができるような関係づくりに努めている。		契約終了後でも、本人や家族が孤立しないよう手紙を出したり、気軽に相談や支援に応じるよう努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを通して、一人ひとりの日頃の生活に対する希望や思い等の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、その人の立場や視点に立った意見を出し合い話し合いを行っている。		意思疎通が困難な方は、その人の表情、言葉遣い等、細かい事でも見逃さず、必ず全職員がミーティング等で検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前はもちろん、入居後でも、随時本人や家族から生活歴や馴染みの暮らしを聞き取り、職員全員が把握できるようにしている。		本人が楽しかった思い出や生活環境を把握し、現在の生活に反映出来るよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	全職員が利用者一人ひとりの生活リズムや体調の変化に十分気をつけ、些細な事も見逃さず把握するよう努めている。		本人が有する力を発揮できる事が大きな喜びと感じてもらえるようなケアに努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から希望や意見を聞き入れ、職員全員でカンファレンスやモニタリング、アセスメントを行い、介護経験豊富な計画作成者や代表者を交え作成している。		本人にとって最も希望される、より良い暮らしが出来るような介護計画作成に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>小さな変化も見逃さず、必要な場合は随時家族や本人に説明し、プランの見直しを行っている。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		<p>一つひとつの事柄を詳しく記録し、職員間での情報を共有し、理解した上でケアに努め、介護計画の見直しに活かしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		<p>家族の希望に応じながら柔軟に対応している。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	<p>近隣の幼稚園や町内会等、地域の人や場の力を借りた取り組みをしていきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		<p>利用者の希望を叶える為に訪問美容院サービスを利用したり、地域とのつながりを築く為に地域内の理容院を利用している。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>いろいろな情報の共有を行い、今後も協働していけるよう取り組んでいる。</p>



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関において日常の受診や1ヶ月に2回の訪問診療があり、いつでも医師や看護師と連絡がとれるようになっている。又、家族と協力し、通院介助を行っている。		利用者の体調に十分配慮し、異変があった場合は24時間体制でかかりつけ医と連絡がとれるようにしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	指定協力医療機関より脳神経外科の受診を行っている。また、利用者一人ひとりに専門治療を受けられるよう支援している。		利用者の状況に伴い適切な医療を受けられるよう支援している。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者の普段の状態や個別の状況をよく知っている看護師を確保している。		看護師に相談しながら利用者一人ひとりの健康管理や医療的な支援をしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換を密にし、家族との連携を図り、利用者が入院した時に安心して過ごせるよう支援している。		入院時の本人のストレスや負担を軽減するため、家族との情報交換を密にし、相談があれば柔軟に対応している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の指針を作成しており、家族、医師、看護師、職員を交えて今後のあり方について慎重に検討している。		重度化した場合、事業所の対応について、本人、家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いをし、その時々本人・家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っていくよう取り組んでいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けたチームでの支援について職員全体で率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながら支援していけるよう取り組んでいる。		今後の変化に備えて関係者での話し合いや連携体制づくりに取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	別の居宅や事業所へ移り住む際、日頃の生活状況、情報交換の詳細等を連絡し、今までの暮らしにより近い生活環境づくりに努めている。	○	馴染みの職員が機会をつくり、状況に応じて訪問する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	全職員がプライバシーの確保を徹底しており、必ず利用者の立場になって声掛けや支援を行っている。利用者のプライバシーを損ねる言動をとらないように注意を払っている。		日頃から利用者への声掛け、言葉遣いに十分配慮している。又、職員同士、気付いた時等ミーティングで全職員が話し合いをしている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者の意思を尊重し、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出せるよう支援している。		職員の決めた事を押しつせず、利用者の表情や全身での反応を注意深く読み取りながら本人の希望や好みを把握していけるよう努めている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人ひとりの生活リズムを全職員が把握し、利用者のペースを大切に、その人らしいゆったりとした生活が送れるよう支援している。		職員が利用者の体調に合わせ、会話を通じながら、希望や思いを受け入れ常に柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	行事や外出時に、化粧をし、髪型や服装等の身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。出張美容師に来てもらいカットやパーマをかけている。又、好みの色のマニキュアを塗ったり、美容を楽しんでいる。		髪型、服装等の身だしなみやおしゃれは利用者一人ひとりの個性を活かせるよう支援している。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	利用者が無理せず出来る範囲の中で、食事の準備や後片付けをしてもらい、その間、会話も大切にしながら常にコミュニケーションを図っている。		利用者の好きなメニューを把握し、職員との談話を通じて楽しい食事の時間を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は利用者の嗜好物を理解し、日々楽しめるよう支援している。お酒については、体調に合わせ、量を決め、夕食時に談話しながら楽しめるよう支援している。		職員と利用者が一緒に買物に行き、利用者が好みの嗜好品を購入し、楽しんでもらえるよう支援している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	職員は利用者の生活時間や習慣を把握している。利用者の羞恥心に十分配慮した声掛けをし、トイレ誘導する事でおむつの使用を無くし、トイレでの排泄を促している。		必ず排泄チェックをしており、トイレ誘導を行っている。利用者に尿意がなくても時間によって声掛けし、トイレ誘導し、排泄を促している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	浴槽にお湯をはる前に利用者に温度や時間帯等の希望を聞き、ゆったりとくつろいだ入浴が出来るよう配慮している。		入浴を拒む利用者に対しては、職員が入浴の効果等を分かり易く説明し、理解納得した上で入浴してもらえるよう支援している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、体調に注意しながら休息や睡眠が取れるよう支援している。		疲労感が溜まらないよう、常に顔の表情や体調に気を配りながら休息を取る等して支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野での役割や趣味、特技を無理なく活かし、利用者に対して感謝の言葉を伝える事により、喜びや必要とされている事を感じてもらい、穏やかな日常生活が送れるよう支援している。		利用者との会話の中から楽しみ事を見だし、自分らしく暮らせるよう支援している。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者一人ひとりの希望や力、状況に応じ、お金を自己管理したり使えるようにしている。		自己管理できる利用者は、職員と一緒に買物に出掛け、欲しい物を購入する事で安心感や満足感が得られ、楽しんでもらえるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調等に配慮し、外出の希望が出た場合、職員は安全性を考え付き添って外出出来るよう支援している。季節感を感じてもらふ為、体力に応じ極力戸外に散歩に出掛けている。		歩行困難な利用者は、十分に注意しながら職員と一緒に庭やテラスに出て、草花をみてもらい季節感が味わえるよう配慮している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者との日常会話の中で、行きたい、もしくは行ってみたい場所を聞いた場合は、行事等で取り入れ実現に向けた計画を立てている。		利用者との談話の中から懐かしい場所や行きたい場所を見だし可能な限り出掛けられるよう職員はミーティングで協議を重ねて支援している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が電話したいと希望された場合は使用できるよう支援している。年賀状は毎年本人に書いてもらい出している。		便箋や切手を用意しており、本人が希望された場合は、いつでも手紙を出せるようにしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限は無く、いつでも家族や友人等が訪問し易いような雰囲気作りを心がけている。いつ来ても居心地が良く、またすぐに来たいと思えるような空間づくりを常に心がけている。		家族や友人等が訪問した場合、職員はいつでも笑顔で対応し、居心地の良い空間作りに努めている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々、利用者の人権を守り、身体拘束をしない危険の無いケアのあり方をマニュアルを使用し、ミーティング等で話し合い取り組んでいる。		身体拘束をしない「自分に置き換えてされたくない事は決して行わない」と言う姿勢でケアを行い、全職員が拘束をしないという意味を理解し、良いケアが出来るよう取り組んでいる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は利用者の行動を把握し、外出しそうな様子が見られたら声掛けをし、希望により散歩や買物に出掛け、日中鍵をかけなくてすむよう支援している。		利用者の行動を把握し、安全を確保しながら日中鍵をかけなくてすむ工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は二階フロアにて過ごしている利用者が多いので状況を把握できる職員が常時居る。自室での生活が長い方は訪室し声掛けを行っている。夜勤者はプライバシーに配慮しながら時間ごとに様子を確かしている。		調理している間もフロアを見守り利用者の状況を常に把握している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居時、危険な物品があった場合職員が説明し、保管管理を行う。管理した物品を使用したい場合は必ず職員がそばに居て注意しながら見守る。		常に『なぜ管理が必要か?』を職員で話し合い、むやみに管理するのではなく、利用者の状態を十分に把握しながら危険を防ぐための管理を行っている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状況から危険と思われる事をミーティングで検討し、再確認して未然に防ぐ取り組みを行っている。		職員からのヒヤリハットの報告により、今後の予防対策を検討し、事故防止に活かしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が年に1回消防署で行う応急手当の勉強会に参加し習得している。		急変した場合や事故発生時のマニュアルがあり、ミーティングに再確認をし職員の連携が取れている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて町内会の代表より、避難経路や場所の確認を行っている。消火器等の設備点検を定期的に行っている。		運営推進会議等で日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクについて家族との話し合いを状況変化に応じて行っている。利用者に向けた自由な暮らし、穏やかに過ごせるよう取り組みを説明し、理解納得されるよう努めている。		月1回家族宛の手紙に利用者の状況説明を行っている。その人らしい暮らしが出来るよう必ず希望を聞き話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は必ず介護記録の確認を行い把握している。バイタルチェックの確認、顔色、食欲、会話の中から体調の変化に注意し記録している。		職員は一人ひとりの普段の様子をよく知り、情報を共有し、変化や異常の兆候に気付いたら、速やかに報告し早い早期対応が出来るように取り組んでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	介護記録に処方箋を添付し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があった場合は連絡ノートに必ず記入し全職員が把握している。		服用時は本人に手渡し、服用できているか必ず確認している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食物繊維や野菜を多く摂取できるような調理や献立の工夫を行っている。利用者の状況に応じ毎朝牛乳の促しを行っている。		身体を動かす事の重要性を説明し、理解していただき、毎日ラジオ体操を行い自然排便を促すための工夫をしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	全職員が口腔内の手入れの必要性を理解し、利用者一人ひとりの習慣や有する力を活かしながら、食後の歯磨きの声掛けを行い見守り介助を行っている。		一人ひとりの習慣や有する力を活かしながら歯磨き等の支援をしている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全職員が知識や意識を持ち、利用者一人ひとりの栄養バランスやカロリー等を考えながら支援している。		食事があまり摂れない場合は、必ず声掛けし、体調の変化に十分配慮し、栄養の偏り、水分不足が起こらないよう支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、全職員が認識し実際の対応が出来るよう徹底を図っている。		利用者と一緒に調理をする場合や散歩から戻った場合は必ず手洗いを行う等して感染症予防に努めている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきん、包丁等は毎日漂白除菌を行い清潔に心掛けている。調理器具、台所回り等は頻繁に消毒を行っている。食材の確認、点検を行っている。		残った食材は状況を確認し、冷凍や処分している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関入口に手作りの看板を掲示している。明るい雰囲気のある玄関になるよう、花や手作りのカレンダー、季節に合った装飾品を飾り利用者や家族が楽しめるよう工夫している。</p>		<p>家族や地域の方が来訪しても、違和感や威圧感がない、明るく楽しい玄関まわりになるよう工夫している。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>毎月の行事や四季に応じたものを取り入れ、季節感を感じ、安らぎ居心地よく過ごせるように工夫や配慮をしている。</p>		<p>利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切に、居心地よく過ごせるように努めている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>広々とした二階のテラスにベンチチェアを置き外を眺めながら穏やかにくつろげるような空間づくりをしている。</p>		<p>一階と二階にソファがあり、壁には利用者が書いた習字や行事のスナップ写真等を貼り、楽しみながらくつろげるスペースを作りをしている。</p>
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>家族と相談の上、使い慣れたものを使用したり、新しく購入する時は生活スタイルなどに合わせた物を選び、居心地よい空間作りに努めている。</p>		<p>利用者の生活スタイルに合わせた好みの物や写真を置き、ゆったりと穏やかに過ごせるよう配慮している。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>季節に応じて、毎日の清掃の際は必ず換気に努めている。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、悪臭が出ないように配慮している。</p>		<p>利用者一人ひとりの状態や反応を見ながら、出来るだけ自然環境に近い換気・空調の管理が出来るよう努めている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>利用者が使いやすい収納家具やカーペットを使用し、利用者、職員と家族で話し合い住みやすい生活環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>利用者の身体機能の状態に合わせ、手摺りを設置し、転倒しないよう安全な環境づくりに努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱が起きないような環境づくりに努めている。</p>		<p>利用者の状態を把握し、行動を見極めて混乱が起きないよう環境面での工夫に努めている。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>利用者の有する力を活かして、植木の手入れや水やりをしている。テラスにベンチチェアを置き、景色を眺め楽しんでもらえるよう工夫している</p>		<p>庭や畑で職員と利用者が共に野菜を育てたり、植木の手入れ、水やりが出来る環境づくりをしている。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ホーム名の「笑顔の村」の通り、職員はいつも笑顔や笑いの絶えないホームづくりを目指している。些細な事でも必ずミーティングで話し合い利用者が安心かつ穏やかに生活できるよう支援している。